

注目の「アROUND広州」

岡山県上海事務所 小林和暁

(日中経済貿易センター上海事務所 所員)

アROUND広州その1～南沙新区の誕生

2012年9月6日、広東省広州市南沙（なんざ）区が上海市浦東（ほとう）新区、天津市濱海（ひんかい）新区等に続き中国6番目の新区に昇格し、広州市南沙新区となった。

広州市南部、広州湾の北岸にある南沙新区は、広州市、深セン市、香港、マカオなどといった広州湾沿岸各都市・地域のほぼ中央に位置する。広州市内へは地下鉄や車で約1時間、深セン市へは高速鉄道で約30分、香港へは高速鉄道で約1時間30分で移動できる。

トヨタ自動車が進出していることで知られており、自動車産業（完成車及び自動車部品製造）が発達しているほか、船舶産業（造船、修理及び船舶部品製造）、設備産業（原子力発電などの電力関係設備、環境・省エネ設備、デジタルコントロール設備、トンネル掘削機製造など）、IT関係などの産業の発達のほか、企業の地域本部の誘致や海上物流にも力を入れている。

CEPAと規制緩和

中国は「中国本土と香港・マカオとの経済関係緊密化協定（CEPA）」を締結している。これは中国本土と香港の経済融合、経済協力を目指したもので、2003年に初めて締結されて以降、毎年更新されている。

その内容は、香港・マカオ原産商品のゼロ関税、香港企業の中国本土進出の優遇措置等で、CEPA優先実施総合モデル区として、南沙区

が選ばれた。2011年の南沙新区のGDPは571億円で2002年の9倍に、税収総額は235億円で2002年の26倍となった。

広州市南沙区が南沙新区となり、更なる規制緩和が進められている。現代サービス業への納税改革の先行実施、社会組織への優遇税制の導入、香港・マカオ企業に対する進出障壁、投資比率、業務領域、市場範囲の緩和及びサービス貿易の自由化、南沙新区に住む住民や就業者、進出企業への香港・マカオへの1年通行証の発行、完成輸入車の輸入港区の南沙港への拡大、南沙港区の小口混載貨物輸出業務推進への支援などが、現在中央政府に申請されており、1年後には許可が下りる見通しである。

アROUND広州その2～佛山市

広東省佛山（ぶつざん）市は広州市の西隣にある都市で、広州市との結びつきが非常に強い。広州市中心部とは地下鉄広佛線でわずか1時間で結ばれている。

日本企業は現在200余社が進出。家電、新型ディスプレイ、建築用セラミックに強みを持ち、特に冷蔵庫は中国シェア80%、電子レンジは中国シェア48.6%、カメラは世界シェア15%、建築用セラミックは中国シェア60%を誇る。また、一汽フォルクスワーゲンが30万台規模の工場を建設、既に試生産を行っており、間もなく本生産に入る。更に第二期30万台規模の工場建設が検討されている

佛山市は引き続き家電、半導体、照明、情報技術、バイオ、設備、新材料等の企業誘致を行

っている。同市南海区には日本工業園があり、日本企業28社が既に進出。標準工場の家賃は15元/m²/月で、日本の中小企業が進出しやすい投資環境である。

さらなる発展可能性

広州市及びその周辺都市は各種産業が発展しており、外資系企業の進出も非常に多い。経済規模は長江デルタ地域には及ばないが、香港やマカオの影響もあり政治的試みは先進的で、大変潜在力のある地域である。

特に広州市、深セン市、香港、マカオと、広州市南沙新区、佛山市などの周辺地域との市場の一体化、緊密化は今後もウォッチが必要である。更には東南アジア市場への輸出が視野に入るこの地域は異彩を放っている。



広州市内と南沙新区を結ぶ広州地下鉄4号線。2007年に南沙新区まで延伸され、広州地下鉄としては比較的早期に建設された。

(2013年5月)